浜から食卓までを網羅し、
挑戦の歩みを未来へ



ニチモウ株式会社

2027年3月期 第2四半期（中間期）
決算短信補足説明資料

2026年11月6日

8091

プライム市場



ニチモウ株式会社

2027年3月期第2四半期（中間期）決算

2027年3月期第2四半期（中間期）決算のポイント：二桁増収増益

売 上 高 ：77,610百万円　前年同期比＋15.8%（期初予想進捗率　通期53.5%・第2四半期110.9%）
営業利益： 1,821百万円　同　＋14.8%（　同　通期56.9%・第2四半期121.5%）

事業環境

・物価上昇（各種製品の値上げ進む）で、個人消費には慎重な動き
・他方、インバウンド効果は継続
・海水温上昇等による漁獲量や魚種分布の変化で、主力水産物の調達・販売に変化（魚種、漁獲量、価格）

各セグメントの状況

食品事業：増収増益　中国向け凍魚販売は引き続き堅調、加工食品販売も順調に推移
海洋事業：増収増益　まき網や陸上ネットの販売に加え、養殖関連の需要も安定
機械事業：増収減益　海外販売は好調も、国内販売では機械納入の後ろ倒しや大型案件長期化が影響
資材事業：増収増益　印刷用フィルムや包装資材、および農業用資材の販売が増加

2027年3月期第2四半期決算：増収増益、期初計画比でも上振れて着地

売上高：77,610百万円（＋15.8%）

食品：中国向け凍魚販売が好調を持続
海洋：養殖関連販売が好調

営業利益：1,821百万円（＋14.8%）

食品：中国向け凍魚販売継続・水産加工NB商品も順調に収益化
海洋：まき網漁具･陸上ネット販売堅調、養殖関連も需要安定

（単位：百万円）	2026年3月期2Q	構成比（%）	2027年3月期2Q実績	構成比（%）	前年同期比（%）	2027年3月期2Q期初計画	2027年3月期期初予想	期初計画に対する進捗率(%)
売上高	67,022	100.0	**77,610**	100.0	+15.8	**70,000**	**145,000**	**53.5**
売上総利益	6,283	9.4	**6,687**	8.6	+6.4	**ー**	**ー**	ー
販売費及び一般管理費	4,696	7.0	**4,865**	6.3	+3.6	**ー**	**ー**	ー
営業利益	1,586	2.4	**1,821**	2.3	+14.8	**1,500**	**3,200**	**56.9**
経常利益	1,803	2.7	**2,117**	2.7	+17.4	**1,700**	**3,600**	**58.8**
親会社株主に帰属する中間純利益	1,327	2.0	**1,831**	2.4	+37.9	**1,200**	**2,600**	**70.4**

上期事業別動向（前年同期比）

主要4事業は堅調。食品・海洋・資材で増収増益、機械は前期大型案件により反動減も例年並みの業績推移

（単位：百万円）		2026年3月期2Q	構成比（%）	2027年3月期2Q	構成比（%）	増減
全体	売上高	67,022	100.0	77,610	100.0	+10,587
	営業利益	1,586	―	1,821	―	+235
食品	売上高	42,157	62.9	49,878	64.3	+7,720
	営業利益	772	31.7	944	33.9	+172
海洋	売上高	12,227	18.2	13,638	17.5	+1,411
	営業利益	659	27.1	900	32.4	+241
機械	売上高	6,670	10.0	7,376	9.5	+706
	営業利益	766	31.5	673	24.2	△92
資材	売上高	4,612	6.9	5,373	6.9	+760
	営業利益	192	7.9	228	8.2	+35
バイオティックス	売上高	142	0.2	146	0.2	+4
	営業利益	△0	―	△10	―	△ 10
物流	売上高	1,158	1.7	1,144	1.5	△ 13
	営業利益	△ 1	―	△ 24	―	△ 23
その他＊	売上高	53	0.1	51	0.1	△ 1
	営業利益	42	1.8	37	1.3	△ 5
全社費用		△ 845	―	△ 927	―	△ 82

＊その他は、不動産賃貸業など。営業利益構成比は、全社費用控除前。

主力事業の状況①　食品事業・海洋事業

食品：増収増益　中国向け凍魚や加工食品は好調も、すり身はミール工場火災の影響で収益が伸び悩む

（単位：百万円）	2026年3月期2Q	利益率（%）	2027年3月期2Q	利益率（%）	増減
売上高	42,157	－	49,878	－	＋7,720
営業利益	772	1.8	944	1.9	+172

＜鮮凍水産物＞（58.5%）カニは新たに取り扱いを開始したタラバ製品をはじめ業務用販売は好調も、製造コストの高騰により増収減益
北方凍魚は中国向け販売が引き続き堅調に推移し増収増益
助子は消費者の購買意欲が低下するなか、生産効率の見直しを続け減収増益
＜加工食品＞　（27.7%）養殖銀ザケ、サバ・ニシン製品の販売が順調に推移し増収増益
＜すり身＞　（13.8%）原料相場の高騰を受けて売上は伸長も、火災によるミール工場の操業停止の影響で増収減益

海洋：増収増益　養殖関連需要は安定、漁具資材・船舶関連も堅調に推移

（単位：百万円）	2026年3月期2Q	利益率（%）	2027年3月期2Q	利益率（%）	増減
売上高	12,227	－	13,638	－	＋1,411
営業利益	659	5.4	900	6.6	＋241

＜養殖部門＞　（58.3%）養殖用餌料販売や生簀・機資材の需要が引き続き安定し増収増益
＜漁網・漁具資材部門＞（37.7%）漁具資材・陸上ネット販売が堅調に推移、海外向け販売も計画通り進捗し増収増益
＜船舶・機械部門＞　（4.0%）船具船用品の販路拡大や、一部の造船需要の高まりを受け増収増益

＊()は売上高構成比

主力事業の状況②　機械事業・資材事業

機械：増収減益　国内では価格高騰による納期の遅延や大型案件の長期化が影響

（単位：百万円）	2026年3月期2Q	利益率（%）	2027年3月期2Q	利益率（%）	増減
売上高	6,670	－	7,376	－	＋706
営業利益	766	11.5	673	9.1	△92

＜国内＞（84.3%）中小型案件を着実に積み重ねるも、各種部品の価格高騰に起因する納期の後ろ倒しや大型案件の長期化により減収減益

＜海外＞（15.7%）国内メーカーの海外展開に加え、円安基調が追い風となり増収増益

資材：増収増益　印刷用フィルムや包装資材、農業用資材の販売が堅調に推移

（単位：百万円）	2026年3月期2Q	利益率（%）	2027年3月期2Q	利益率（%）	増減
売上高	4,612	－	5,373	－	＋760
営業利益	192	4.2	228	4.2	＋35

＜化成品＞（93.0%）印刷用フィルム販売が堅調に推移したほか、包装資材の価格改定が順調に進み増収増益

＜農畜資材＞（7.0%）農業用資材の販売が引き続き堅調に推移し増収増益

＊()は売上高構成比

貸借対照表（要約）

2Qにおいても「タラバガニ」中心に、需要増が見込まれる高級水産物を積極的に確保
⇒年末商戦(3Q)に向けた販売準備が完了

資産の部

（単位：百万円）	2027年3月期2Q末	前期末比増減
流動資産	**71,945**	**＋ 11,341**
現金及び預金	8,129	＋ 1,260
受取手形及び売掛金 電子記録債権	17,825	＋ 1,299
商品及び製品	38,653	＋7,962
固定資産	**30,774**	**＋ 962**
有形固定資産	10,663	＋ 134
無形固定資産	512	＋ 11
投資その他の資産	19,598	＋ 815
資産合計	**102,807**	**＋ 12,285**

負債・純資産の部

（単位：百万円）	2027年3月期2Q末	前期末比増減
流動負債	**48,006**	**＋12,944**
支払手形及び買掛金 電子記録債務	13,463	＋ 1,119
短期債務	28,177	＋10,667
契約負債	4,214	＋ 1,103
固定負債	**18,523**	**△ 2,669**
純資産	**36,278**	**＋2,010**
株主資本	28,189	＋1,501
その他包括利益計	8,066	＋506
負債・純資産合計	**102,807**	**＋12,285**

キャッシュ・フロー計算書

・例年通り年末商戦に向けた在庫の積み増しを実施、年末商戦(3Q)以降で販売・回収
・短期借入金のほか、新たにＣＰを活用して調達資金の多様化を進める

（単位：百万円）	2025/4-9	2026/4-9	増減	主な要因
現金及び現金同等物の期首残高	5,514	**6,415**	＋901	
営業活動によるキャッシュフロー	△9,440	**△ 5,952**	＋3,487	売上債権の増加　△1,241 棚卸資産の増加　△8,028 仕入債務及び契約負債の増加　＋2,175
投資活動によるキャッシュフロー	△458	**△ 277**	＋180	有形･無形固定資産への投資　△609 投資有価証券の売却　＋346
フリーキャッシュフロー	△9,898	△6,230	＋3,668	
財務活動によるキャッシュフロー	10,329	**7,443**	△ 2,886	短期借入金の調達（CP含む）　＋8,756 長期借入金の調整　△653
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,927	**7,679**	＋1,751	

ニチモウ株式会社

2027年3月期通期見通し

上期の評価と下期の事業環境（上期総括を踏まえた今期見通し）

通期見通しに変更なし、上期堅調で下期も当初想定と大きく変わらず

2027年3月期（上期）総括

外部環境

- 堅調な水産物インバウンド需要
- 物価上昇による個人消費の伸び悩み
- 漁獲量が不安定で、原料相場は変動
- 製造コストは上昇
- 国内の機械設備投資は旺盛だが、大型案件は長期化傾向

内部状況

- 食品：タラバ製品含め、需要期に対応できる供給体制を整備
- 海洋：養殖で自社設備内製化が進展 ノウハウ活かし設備外販も開始

2027年3月期（下期）見通し

外部環境

- 堅調な水産物インバウンド需要の持続
- 各種政策効果期待による消費マインドの改善
- 米国通商政策など不安定な国際情勢は懸念材料

内部状況

顧客ニーズを踏まえた営業を徹底

- 食品：NBを始め販売力を強化
- 海洋：養殖で独自ソリューションを強化
- 機械：中小型案件に注力、大型案件は進捗管理を徹底

2027年3月期見通し：変更なし、売上高1,450億円（＋3.7%）、営業利益32億円（＋16.0%）

中間決算は一時要因もあり上方修正。事業環境を慎重に見極め通期は据え置き、確実に二桁増益へ

売　上　高　：①主力の食品事業は、インバウンド需要・海外向け原料販売堅調で増収へ
②海洋事業は、養殖事業拡大が続き増収へ
③機械事業は、円安効果による海外案件拡大で増収を見込む

営業利益　：①増収効果で、価格転嫁などエネルギーや原料コスト上昇をカバーし増益へ
②来期稼働開始へ向けてミール工場再建費用は織り込み済。再開早まれば＋α

（単位：百万円），	2026年3月期	構成比（%）	2027年3月期	構成比（%）	前期比	
					（%）	＋差異
売上高	139,779	100.0	145,000	100.0	＋3.7	＋5,221
営業利益	2,758	2.0	3,200	2.2	＋16.0	＋442
経常利益	3,018	2.2	3,600	2.5	＋19.3	＋582
親会社株主に帰属する当期純利益	2,180	1.6	2,600	1.8	＋19.3	＋420

2027年3月期見通し(四半期毎の業績推移):期初見通し達成へ

上期:第2四半期好調で、期初計画を上回る結果で着地
下期:3Q堅調を想定し、前年同期比増収増益で、期初見通し達成へ

(単位:百万円)

	売上高				営業利益			
	2026年3月期(実績)	構成比(%)	2027年3月期(実績・計画)	構成比(%)	2026年3月期(実績)	構成比(%)	2027年3月期(実績・計画)	構成比(%)
通期	139,779	100.0	145,000	100.0	2,758	100.0	3,200	100.0
1Q	35,305	25.3	37,757(実績)	26.0	1,033	37.4	806(実績)	25.2
2Q	31,716	22.7	39,853(実績)	27.5	553	20.1	1,015(実績)	31.7
上期	67,022	47.9	77,610(実績)	53.5	1,586	57.5	1,821(実績)	56.9
3Q	43,994	31.5	―	―	1,574	57.1	―	―
4Q	28,761	20.6	―	―	△402	△14.6	―	―
下期	72,756	52.1	67,389(計画)	46.5	1,172	42.5	1,378(計画)	43.1

[食品]
年末商戦

2027年3月期見通し（事業別）

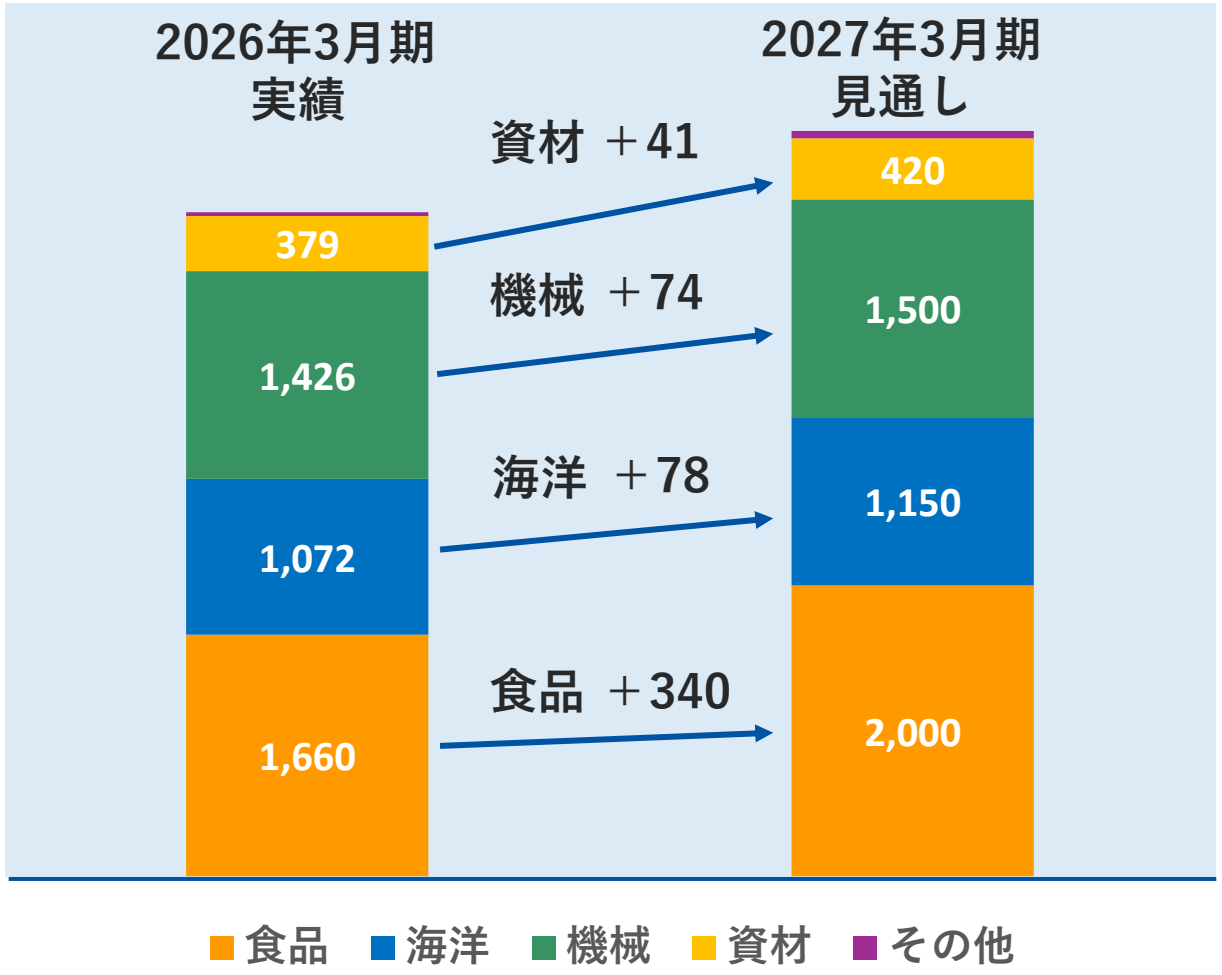
主要４事業で増収増益を想定。主力の食品は早期のミール工場稼働再開を待ちつつ、既存･新商材で増益へ

（単位：百万円）		2026年3月期 実績	構成比（%）	2027年3月期 見通し	構成比（%）	増減
全体	売上高	139,779	100.0	145,000	100.0	+5,221
	営業利益	2,758	―	3,200	―	+442
食品	売上高	89,848	64.3	91,500	63.1	+1,652
	営業利益	1,660	35.7	2,000	38.5	+340
海洋	売上高	24,555	17.6	25,700	17.7	+1,145
	営業利益	1,072	23.1	1,150	21.5	+78
機械	売上高	13,409	9.6	14,500	10.0	+1,091
	営業利益	1,426	30.7	1,500	28.8	+74
資材	売上高	9,271	6.6	10,300	7.1	+1,029
	営業利益	379	8.2	420	8.1	+41
バイオティックス	売上高	289	0.2	350	0.2	+61
	営業利益	11	0.2	10	0.2	△1
物流	売上高	2,294	1.6	2,550	1.8	+256
	営業利益	14	0.3	40	0.8	+26
その他＊	売上高	109	0.1	100	0.1	+1
	営業利益	85	1.8	80	1.5	△5
全社費用		△1,760		△2,000		△240

＊その他は、不動産賃貸業など。営業利益構成比は、全社費用控除前

2027年3月期見通し(事業別の営業利益)　※全社費用控除前

期初見通しの前提条件は変わらず。食品事業では、新ＮＢ製品などでの利益積み増しに期待



収益強化策

資材	・資材価格高騰分の適正な価格転嫁 ・高機能性商材（SPACE COOLなど）の拡販
機械	・中華総菜メーカー大手向け大型案件 ・円安メリットから海外案件受注増
海洋	・養殖関連資材の堅調な販売は継続へ ・網(ネット)関係で官公庁向け船舶、陸上ネット案件需要増
食品	・インバウンド･通販向け水産物加工食品 ・既存需要の拡大と新規商品の投入効果 新規製品：インバウンド向けタラバカニ 新NB製品：「さば丸シリーズ」

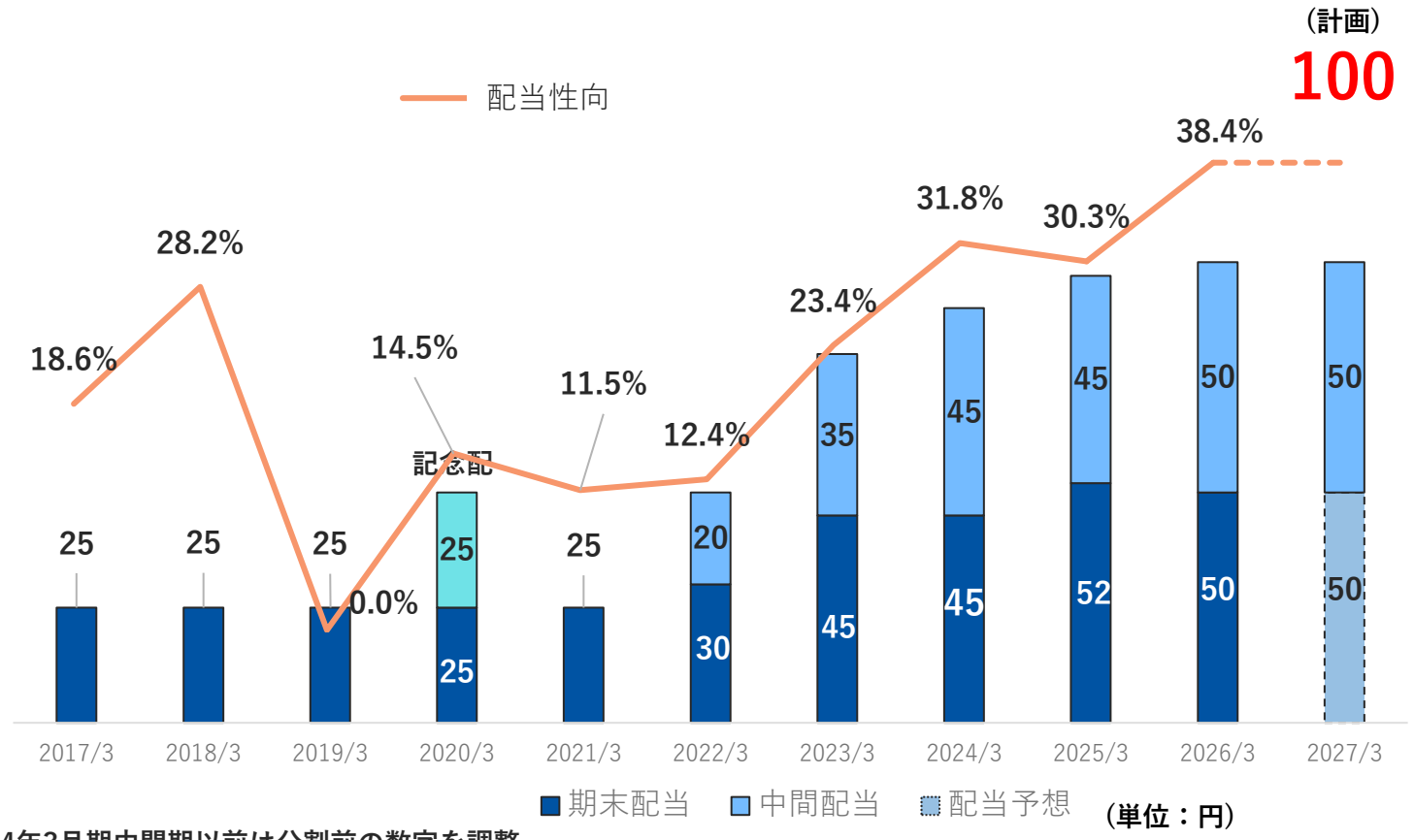
ニチモウ株式会社

株主還元策

配当政策：2027年3月期中間配当は計画通りの１株当たり50円で決定

2027年3月期年間配当は100円を予定（中間50円＋期末50円）。通期の決算次第で上積みも検討

- 中期経営計画目標値： 最終年度2028年3月期「配当性向35%以上」、実質「累進配当政策」の継続
- 中長期（～2035年3月期）では、 「配当性向40%以上」「DOE(株主資本配当率)4.0%以上」を視野に



＊2017年3月期以前は併合前の数字を、2024年3月期中間期以前は分割前の数字を調整

2026年11月16日に「2027年3月期第2四半期決算説明会」を動画配信いたしますのでぜひご視聴ください。
https://www.nichimo.co.jp/ir/library/brief_note/

本資料に記載されております業績見通し等の将来に関する記載は、
現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、
今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。
また、本資料の著作権を含む一切の権利はニチモウ株式会社に帰属します。

IRに関するお問い合わせ
ニチモウ株式会社　総務部IR担当
E-mail：ir@nichimo.co.jp
TEL：03-3458-3020

2026年11月6日